

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2016.2.5 No. 253 連絡先 FAX 042-555-1911



1月20日～26日 最新鋭戦闘機など20機が横田基地に飛来

1月20日(水)から22日(金)までに、最新鋭ステルス戦闘機 F22A ラプター 14機が横田基地に飛来しました。25日 9時40分、10時06分、10時31分に、F22が4機ずつ計12機、離陸しました。2機は残留です。



25日13時06分、F16C ファイティングファルコン6機が着陸。26日16時ごろ、F22が2機とF16(写真)が6機、爆音をとどろかせて離陸しました。横田基地は輸送基地ですから、戦闘機が20機も次々飛来するのは異例のことです。

外来機26機に「嘉手納飛行場に関する三市町連絡協議会」は憤りの声

25日、横田基地を離陸した12機のF22は、当日12時12分、12時33分、12時53分、それぞれ4機編隊で嘉手納基地に着陸したようです。26日にも2機のF22が着陸したようです。

ところが、26日に横田基地を離陸した6機のF16は、26日に嘉手納基地に着陸していません。

27日午後、米国アラスカ州イールソン空軍基地所属のF16戦闘機12機が、米軍嘉手納基地に相次いで飛来したそうです。14機のF22と12機のF16、計26機は、沖縄の嘉手納基地に暫定配備され、訓練海域で激しい訓練を行うものとみられます。

「嘉手納飛行場に関する三市町(沖縄市、北谷町、嘉手納町)連絡協議会」会長の野国昌春北谷町長は「外来機が常駐状態で、騒音苦情が増えている。負担軽減に逆行し許せない」と憤り、当山宏嘉手納町長、桑江朝千夫沖縄市長も怒りの声を上げています。

F22戦闘機の横田基地飛来について 防衛省からレクチャー(聞き取り)

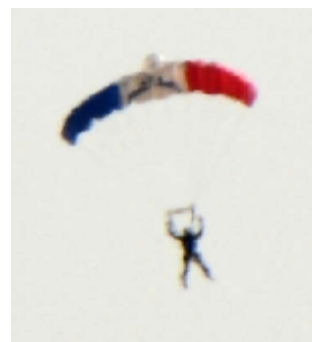
1月28日午後、日本共産党国会議員団東京事務所は、F22など20機の戦闘機が横田基地に飛来したことについて、防衛省から聞き取りを行いました。地元の議員も参加。防衛省は事前の連絡も受けておらず立ち寄りの目的も分からないとしました。米軍機の飛行経路は、国土交通省が把握しているのでは、との質問もだされました。



予告されていた25日～29日の人員降下訓練は 10数人の実施だった?

「25日から29日まで24回、各回11～12名の予定で人員降下訓練」と情報提供がありましたが、週前半は戦闘機の出入りがあったり、29日は天候が悪かったりで、確認できたのは25日2人と28日だけでした。

28日は、12時28分、500m上空から1人は荷物を掲げて2人が降下、12時41分、500mから2人が降下。14時00分、3000m上空から7人が降下しました。C130輸送機は21時頃まで急旋回やタッチアンドゴーの訓練をしていました。右写真は14時に降下した中の、上級者らしき1人。



キーンエッジ（日米共同統合指揮所演習）23日～29日 （ No. 253 の裏面 ）

自衛隊と米軍は2016年1月23日より1月29日までキーンエッジ（日米共同統合指揮所演習）16演習後の、統合双務指揮を横田基地で行いました。この演習は、米軍と自衛隊隊員が戦闘即応態勢と相互運用性を増加させる、一連の共同統合指揮所演習のうちの最新の演習でした。

キーンエッジ16が行われる期間、日米司令部スタッフたちは、コンピューターシミュレーションを実行し、危機や緊急事態に於ける対応手順を演練していきます。訓練は、相互の調整、軍の防御、主催国支援、弾道ミサイル防御、非戦闘避難作戦に焦点を集中したそうです。

在日米軍司令部、第5空軍、在日米海軍、在日米陸軍と在日米海兵隊へ配属される隊員を含め600名の米軍隊員がキーンエッジ16に参加。この演習は米空軍中将ジョン・ドーラン在日米軍司令官と海上自衛隊海将河野克俊統合幕僚長により指揮されました。

朝雲HP（1月27日）には、「平成27年度日米共同統合指揮所演習（CPX）「キーン・エッジ」が1月12日から2月2日までの予定で市ヶ谷地区を中心に在日米軍横田基地や全国の参加部隊の所在地で約7600人が参加して行われている。我が国防衛のための日米共同対処に関する指揮幕僚活動を実施するほか、今回は特に各種事態に際し日米協力に必要な調整要領に焦点を当て、昨年新たに設置された日米間の常設調整機関「同盟調整メカニズム（ACM）」について演練、検証し、共同統合運用能力の維持・向上を図る。」としています。

伊江島に米陸軍艦船2隻 1月26日初入港 大型訓練で備品運搬

沖縄の地元紙は、米陸軍所属の揚陸艇「LCU2000」（総トン数667.52トン、乗員15人）2隻が1月26日、伊江島の伊江港に入港したと伝えました。米軍艦船の同港入港は初めてです。

演習備品の運搬が目的ですが、これまで米軍が伊江島に演習で使う物資を運搬する際は、民間船をチャーターしていました。一方、村内の県道で米兵約80人が大型リュックを背負い、片側1車線の車道を4列で米軍伊江島補助飛行場に向けて歩く様子もみられました。県などは隊列で進む「行軍」は周辺住民に不安を与えるため、米側に繰り返し自粛を求めています。

村議会で基地問題を追及する名嘉實議員によると、同訓練は年に1、2回実施され、同飛行場内にテントを張り空砲での銃撃戦など実施するといいます。基地周辺住民は「早朝から夜間まで頻繁にヘリなど飛び、眠れない時もある。やめてほしい」と話しています。

米側は26～29日の午前7時～午後1時に使用する入港届を村に提出しており、村は2月8日までの大型訓練実施を口頭で確認していました。米陸軍はさらに、米軍艦船2隻の2月5～8日の伊江港への入港届を伊江村に提出。島袋秀幸村長らは29日、物資運搬には民間のチャーター船を使用することなどを沖縄防衛局に要請していました。

横田基地 第35回フロストバイト・ロードレース開催

「横田ストライダース・ランニングクラブ主催による恒例のフロストバイト・ロードレースが1月17日に行われた。」「種目は、ハーフ、5km、ファミリー2km、キッズ2kmの4つ。」と米軍横田基地ホームページに載っていました。

1月17日（日）は、第82回横田座り込み行動の日で、参加者から「今日は大人も子供も、たくさん人が通るね」と、声が上がっていました。

